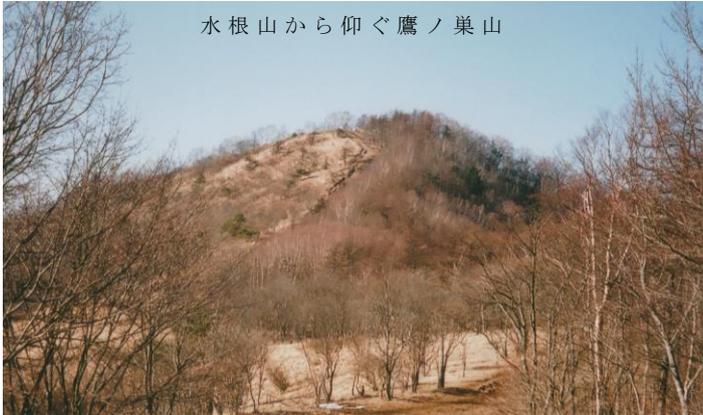


作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒業
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

鷹ノ巣山－初冬の駆け足登山－



水根山から仰ぐ鷹ノ巣山

年末も押しつまった12月下旬、奥多摩・鷹ノ巣山(1737m)に出かけた。奥多摩では、雲取山と並んで人気抜群の山である。東西南北に多くの登山路があるが、今回は、水根沢を登り稲村岩尾根を下りるコースを取った。

奥多摩駅からのバスを9時45分、水根で下車した。バスは登山客で満員だったが、水根での下車は小生一人。身支度を整え早速、水根沢林道を辿る。15分程して「鷹ノ巣山」の道標を見つけ右に入る。畑を突っきり、杉林に入ると間もなく、水根沢の左岸道になる。

断崖を無理矢理削ったような細い登り道が延々と続く。溪流は遥か下。



水根沢左岸道

右手に触れる岩壁も苔むして古い道らしいが、誰が何のため

に手間暇かけてこんな断崖道を作ったのか。

11時20分頃、左手の溪流がせり上がってきて、木橋で右岸に渡る。右岸も同じ岩壁道であるが、次第に傾斜が増してきて、そのうちに沢から離れ、斜面のジグザグ登りになる。喘ぎ喘ぎの登りに自分の年齢を改めて実感した。

ひとしきり登り、アズマヤ風の休憩所に出くわし左折すると、傾斜の緩やかな水源監視道になる。背丈より高い

カヤトの中の道を、道標に従い鷹ノ巣山へと進む。

13時40分水根山。所々にブナの木の間を点する明るい草原の高まりで、正面に鷹ノ巣山本峰が見えるが、居心地が気に入って、ここで昼食休憩とした。

昼食後、20分程のカヤトの尾根の登りで、14時20分鷹ノ巣山山頂に到着。眺望絶好の筈が、もう午後のモ

ヤで遠望が効かず、残念でした。



鷹ノ巣山山頂

10分程の頂上滞

在の後、日原方向に下りようとしてドッキリ。見下ろす北面は全くの雪の世界だった。その上、踏んで溶けて凍った登山路はテロンテロンの蒼氷状態。準備したアイゼンを着け、一步一步慎重に急斜面を下った。

15時20分、ヒルメシクイノタワまで来てやっと雪がなくな



山頂直下北面の下山路

た。後は、ブナ林の長い尾根下りを懸命に急ぎ、稲村岩からは急斜面のジグザグ下りで、巳ノ戸沢底に下り立ったのが16時半。もう薄暗かった。沢の中、ヘッドランプ頼りにルートを探し探し辿り、17時、東日原バス停に到着した時はもう真っ暗だった。早い日没を気にして時間との勝負の、冬の日帰り山行は辛い。